

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



# La Forêt, C'est la Vie !



配布された食料を運ぶ避難民キャンプの女性たち。

## 現地の近況

ブルキナファソでは乾季が終わり、雨季が始まりました。徐々に緑が茂って来ましたが暑さは続いており、日中気温は 40℃ 近くまで上がっています。懸念されていた治安の悪化は小康状態にあり、「緑のサヘル」の活動地域の周辺では、2 か月ほど前に約 20km 北にある町が武装集団による襲撃を受けたのが最後となっています。

避難民の現在数については、関係機関による調査がここ数か月実施されていないため、正確には把握出来ていません。避難住民の帰村は進みつつありますが、井戸を始めとする様々なインフラが使用出来なくなっており、中には再定住を諦めてキャンプに戻って来る住民も出始めています。また再定住を目指す住民たちも、食料や現金を得る方法を見出せず、政府や自治体に対して支援を望む声が日に日に高まっています。

乾季のピークである 4 月、「緑のサヘル」と AJPEE（環境畜産保全青年協会：現地協力団体）は、避難民への食料配布を実施しました（詳細は本文）。避難民の規模や実態を見れば、ごくごく限られた支援かも知れませんが、それで助かる命は確実にあります。危機的な状況はまだまだ続いており、長い取り組みになることでしょう。

さて、こうした状況の中、AJPEE が避難民キャンプに居住している皆さんに対して「雨季に向けて必要なもの」を尋ねて廻ったところ、回答の 1 位は「苗木」だったそうです。そして AJPEE にとって、それは当然で予想通りの結果だったとのこと。生活の立て直しや地域の復興に環境の回復が不可欠であることは言うまでもありませんが、何よりも今後数年間、薪や建築材といった大量の木材が必要となるからです。

緑のサヘル 菅川 拓也

# ブルキナファソから



## ● 避難民支援 ●

5月1日、未だに帰村が叶わず、コングシ市内のキャンプに留まっている避難家族に対して、米と食用油およびTシャツの緊急配布を行ないました。

米はモロコシやトウジンビエ等、現地で食べられている他の穀物と違い、杵と臼による製粉作業を必要としないことから調理時間の短縮と体力温存に繋がり、食用油は乾季の高温の中で安全な料理を作るために需要が増えています。また、Tシャツは強烈な日差しから肌を守ると同時に風通しを確保し、熱中症や体力低下を防ぐことを目的にしています。

配布に際しては、各地区のキャンプにおいて特に支援の必要性が高いと思われる世帯を優先し、最終的に8地区に暮らす84世帯(計1,057名)に対し、米2,100kg、食用油420ℓ、Tシャツ100枚を配布することが出来ました。



「緑のサヘル」は今後も避難民支援を継続して行きます。引き続きご協力をお願いします！

## ● 現地協力団体 ●



環境大臣(右)とサウドゴ代表(左)。

日本の皆さん、こんにちは。私は「緑のサヘル」の協力団体であるAJPEE(環境畜産保全青年協会)の代表、ウィルフリード・サウドゴです。こちらでは暑かった乾季が終わり、待ちに待っていた雨季が始まりました。

先日、私たちはブルキナファソの環境大臣と懇談する機会を得ました。席上、ここ5年間の活動を写真や図面を交えて説明したのですが、とても高い評価を得ることが出来、「AJPEEとAJPEEを資金的、技術的に応

援して来た『緑のサヘル』やその支援者の皆様、全てに心より感謝します」というコメントをいただきました。長い間私たちの活動を支えて下さっている皆様へのお礼の一部にでもなればと思い、お知らせする次第です。どうぞ、今後ともよろしく願いいたします。

# ありがとうございました

\*敬称は略させて頂きました。

## 【 会員のみなさま 】

青山健祐・初穂／岩永孝子／和田隆資／松本仁一／佐藤京子  
木嶋美加子／田中ちえ子／古川フミ子／向井成彦／綱島孝  
新海真理子／米多喜久男／那口真理子／碓井道子／林裕之  
山野上素充／宇野泰子／立屋敷哲／加藤正好／大久保久美子  
北川華子／村井智恵子／株式会社ホーム創建

## 【 ご寄付を頂きました 】

増岡一樹／木嶋美加子／高橋菜々子／岩永孝子／青山健祐・初穂  
桜井より子／石川邦彦／米多喜久男／榎本みつ枝／大久保久美子  
矢部弥生／村上和代／菊地博子／板倉景子／住友久和／太田宜子  
戎綾子／茂原陽／碓井道子／岩手プロジェクト／おいものせなか  
大阪信愛学院小学校／個別教育フォレスト 安多秀司  
かみひとねっとわーく京都〈事務局〉 蛸名健仁・加奈子

他 匿名をご希望の方 1名

## 【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

大久保久美子

上記は 2024 年 2 月 1 日から 2024 年 4 月 30 日までにご支援頂いた方、またそれ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

## 【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)  
(公財)毎日新聞東京社会事業団／アフリカ料理トライブス／(株)ブギ  
ソフトバンクつながる募金／環境メディアフォーラム有限責任事業組合  
(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)国際協力 NGO センター  
LIFULL ソーシャルファンディング／国際ソロプチミスト大阪-中央

## 【 写真を提供しました 】

- ・埼玉県環境部温暖化対策課 小学生向け「地球温暖化防止」啓蒙動画
- ・(株)日本入試センター 小学生対象学習塾「サピックス小学部」塾内教材
- ・学校法人 駿河台学園 駿台予備学校 学内教材「高3選抜東大地理」

## 国内活動



今期の活動は、現地状況（気温や降雨、治安や避難民の生活等）の確認が中心となりました。また、国内のセミナーや講演のご依頼も多くいただき、その調整に従事しました。4月には明治学院大学において、毎年恒例となっている講義をさせていただきました。

### 明治学院大学 講義

4月25日、当団体の菅川が明治学院大学において講義を行ないました。この講義は法学部3・4年生を対象とした選択科目「世界の環境を考える」の1コマで、約80名の学生が出席して行なわれました（2015年以来10年連続の実施となります）。



熱心にメモをとりながら話に聞き入る学生たち。

講義後の感想では、「学生である自分に来ることは多くないが、まずは世界で起きていることを正しく知ることが必要」、「自分には大きな事は無理と諦めるのではなく、身の回りで出来ることを少しずつ積み重ねて行くことが大切」、また「個人では難しくても、集団や団体になることで可能性は大きくなるのでは」等々、前向きな意見が多かったのが印象的でした。

#### ● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでもOKです。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大切にさせていただきます。

避難民支援にご協力下さい！

#### ● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内の活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。書き損じハガキは、1枚5円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

現在、ほとんど在庫がありません！

## La Forêt, C'est la Vie !

Vol.98

編集 緑のサヘル 東京事務局 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: [agsj\\_tokyo@sahelgreen.org](mailto:agsj_tokyo@sahelgreen.org)

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 N A Sビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041